

氏名		受験番号	
----	--	------	--

2021年度 大学院入学試験問題

教育人間科学研究科

心理学専攻 博士後期課程 <一般入試>

外国語(英語)

解答は、問1、問2を別々の解答用紙に記入のこと。

問1 以下の日本語を英語に訳しなさい。

どの感覚の情報が優先されるかは、直面する課題を行うにあたって、各感覚の情報がどれくらい信頼できるのか、その度合いに応じて変化する。視覚と聴覚が共に鮮明な刺激の入力を受けるのであれば、音の発信源の特定については視覚の方が聴覚よりも信頼できるし、時間的な細かい変化を知るときには聴覚の方が視覚よりも頼りになる。しかし、日常生活では、状況によってそれぞれの感覚情報の質は変化し、それによって、どちらの感覚が信頼できるかも変わる。例えば、霧が出ているときには、視覚よりも聴覚を重視した方が正確に音の発信源の位置を把握できるかもしれないし、雑音が多い場所ではその逆だろう。腹話術(ventriloquism)のパフォーマンスでも、プロの腹話術師(上手な人)が行うのと筆者(下手な人)が行うのとでは、人形が話しているように感じる度合いが違うというものだ。

氏名		受験番号	
----	--	------	--

2021年度 大学院入学試験問題

教育人間科学研究科

心理学専攻 博士後期課程 <一般入試>

外国語(英語)

問2 以下の日本語を英語に訳しなさい。

心というものは、重要な意味において三つに分かれている、すなわち、心的なプロセスにはまさに三つの根本的な階層があるということが、長きにわたり議論の余地のない公理であると見なされてきた。よく言われることだが、心というものあるいは魂は、三つの部分、すなわち思考・感情・意志から成っている。より堅苦しく言えば、心というものあるいは魂は、認知的モード・情動的モード・意志的モードという三つの還元不可能な違ったモードで機能する。このような伝統的なドグマは、理論の骨董品の一つとして扱われるべきである。